

中期経営計画

2020（令和2）年度～2022（令和4）年度

那覇空港ビルディング株式会社



経営基本方針

アジア有数の拠点空港への飛躍

当社の戦略方針

(戦略方針1) 安全と安心の徹底追及

空港ターミナルビル事業者である当社の最大の使命は、「安全と安心の徹底追及」である。常日頃から怠らずにリスク管理を徹底することを基本に、国内線施設の老朽化対策や耐震対策など、災害に強いターミナルビルを構築する。さらに、航空保安強化を図るため、航空会社等の関係機関と連携して先進的な保安機器の導入を進める。

①内部統制システムの構築と運用

②各種設備の点検強化と潜在リスクの顕在化

③ターミナルビルの老朽化対策と災害対策

④セキュリティ・セイフティの向上

⑤情報セキュリティ対策の強化

(戦略方針2) 利便性・快適性・機能性の充実強化

世界水準の観光リゾート地を目指す沖縄の玄関口として、那覇空港は単に受け皿だけに留まらず、発信地として世界に誇れる“沖縄観光ブランド”を創り、伝え、広める役割が求められている。引き続き空港ターミナルビルの利便性、快適性、機能性の強化を図るとともに、関係機関と連携して沖縄観光ブランドの向上に繋がる取組を推進する。

①更なる需要の増加に向けた空港機能の強化

②新たな需要に対応する施設の整備

③旅客手続きの円滑化に向けた設備機能の強化

④利用者の多様化に対応できるバリアフリー・ユニバーサルデザインの促進

⑤空港ターミナルの快適性向上

⑥国際的な沖縄観光ブランドの確立に向けた商業エリアの魅力向上

⑦本島－離島間の結末機能の強化

⑧新たな立体駐車場の整備と関係機関との連携等による空港の混雑解消

⑨国際的にも評価される品質の高い空港運営

(戦略方針3) 空港を支えるパートナーとの連携強化

空港運営は、当社のみならず、様々な関係機関の協働によって成り立っている。当社業務も、テナントや委託業者といった各分野の専門事業者があってはじめて機能している。空港を支えるこれらパートナーと目標を共有しない限り「アジア有数の拠点空港への飛躍」は実現できないという認識のもと、関係機関との連携を強化して共に課題の解決を図っていく。

①国と沖縄県の施策連携

②就航航空会社との連携

③入居企業との連携



④委託業者との連携

⑤グループ会社との連携

⑥首里城再建応援プロジェクトの推進

(戦略方針4) 収益力と財務力の強化と人材育成

当社が那覇空港の利用者に「安心」と「安全」を提供し、世界水準の観光リゾート地としての空港機能の強化を図るためには、まずは会社としての収益力と財務力、そして人材力が備わっていなければならない。これまで進めてきた経営合理化と更なる収益の増加を追求するとともに、会社を支える人材の確保と育成に取り組む。

①ビジネス可能空間の有効活用

②テナント売上増加に向けた施策展開

③少数精鋭主義経営とコスト縮減経営の持続

④業務の厳正化と検査体制

⑤会社の成長を支える人材の育成

⑥表彰制度・提案制度の導入

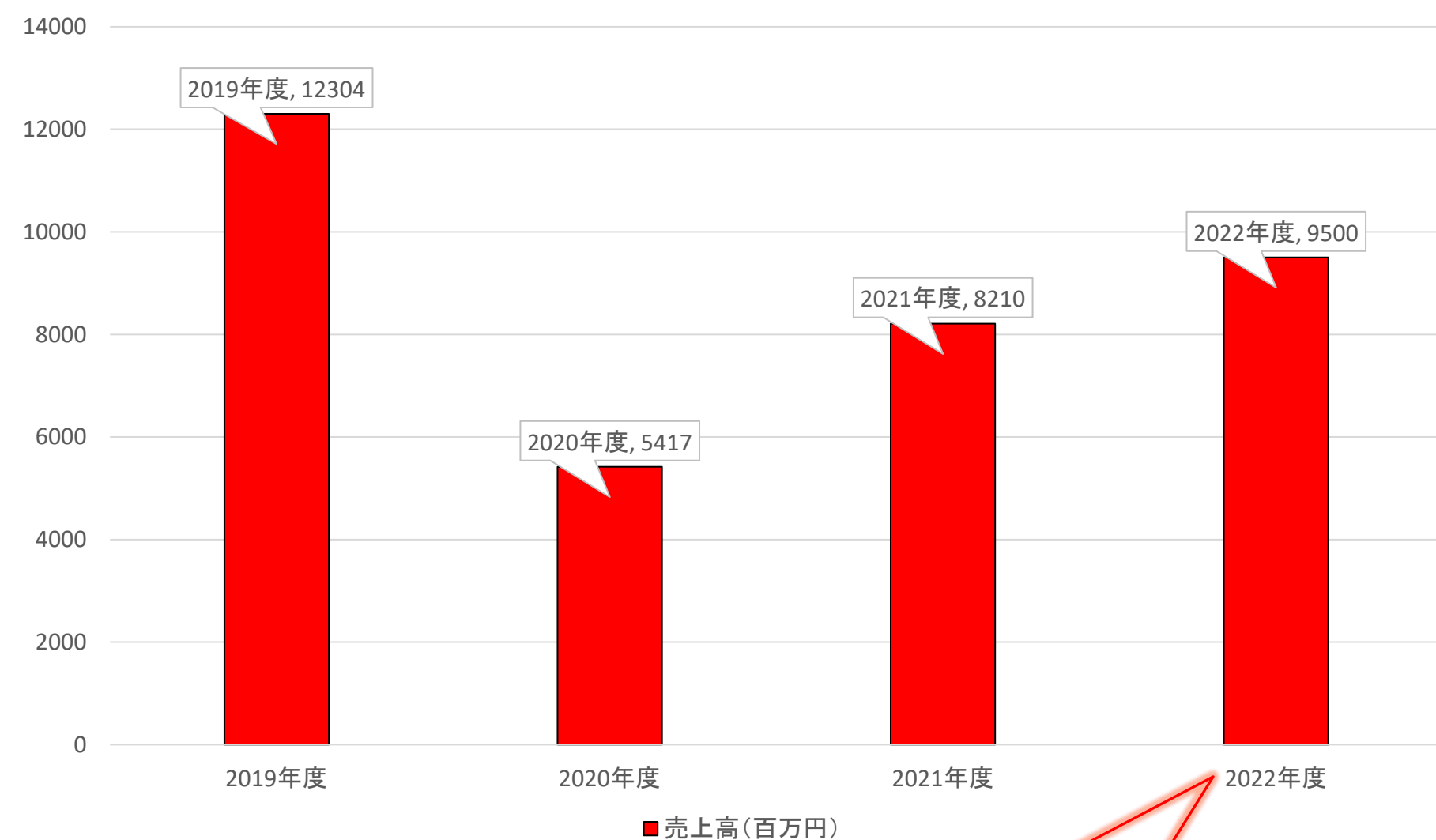
数値目標①

	国際線路線数	国内線路線数	国際線乗降客数	国内線乗降客数
2019年度 (現状)	6カ国 16路線	32路線	314万人	1,746万人
2022年度 (目標)	11カ国 21路線	35路線	360万人	1,750万人

※新型コロナウイルス感染症の影響は加味していません。

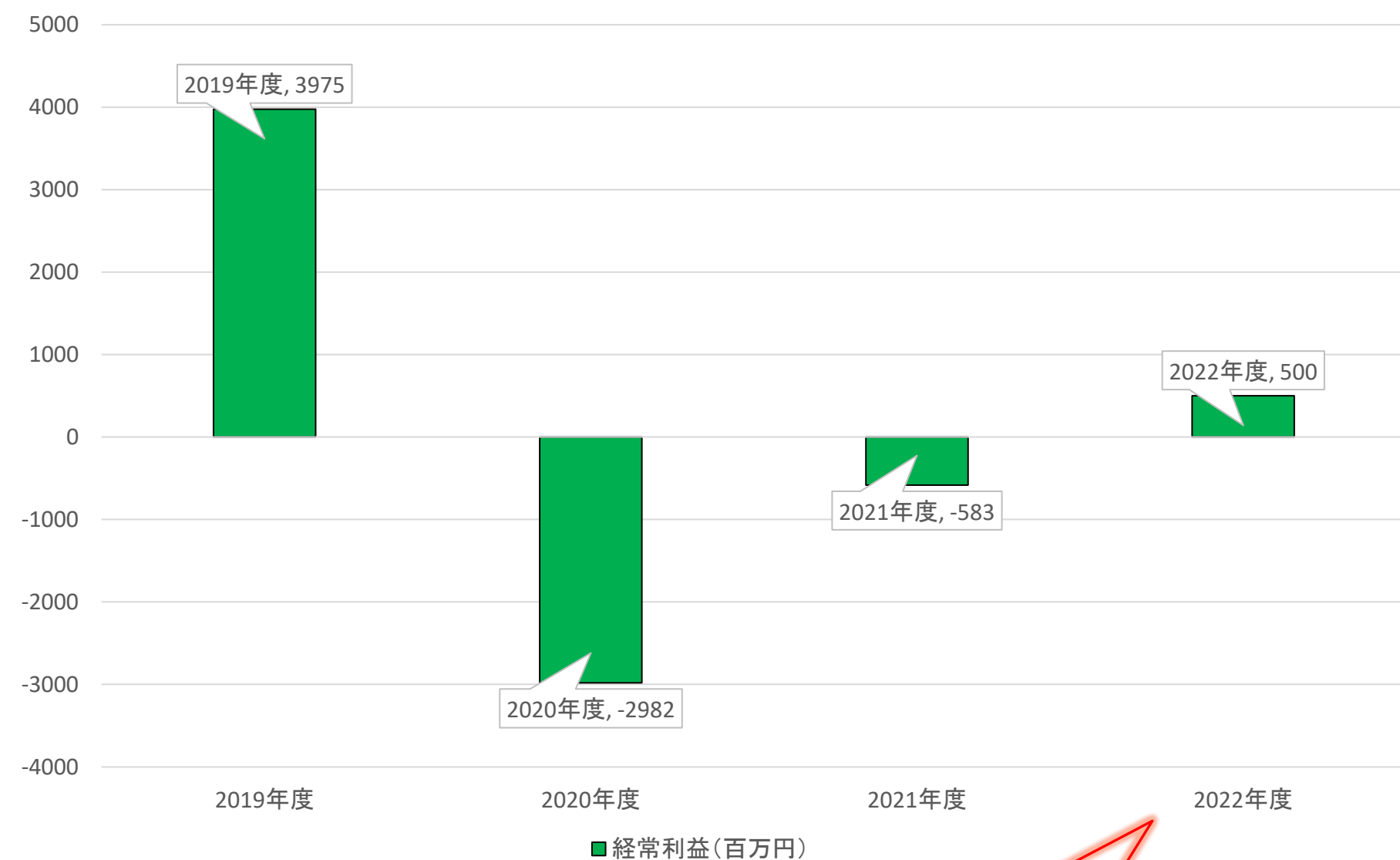
数值目標②

売上高(目標)



2022年度
約95億円

経常利益(目標)



2022年度
約5億円

END